

北東から南西方面（川棚平野～響灘）を望む



# 金怡山城を知る

## ～信仰の場所と山城～

### 【城郭データ】

城郭銘 : 金怡山城 (きんたいやまじょう)  
 (別称) : 城山 (じょうやま)  
 時代 : 鎌倉時代～戦国時代  
 主な城主 : 〔伝〕黒井盛朝 (くろいもりとも)  
 主な遺構 : 腰曲輪、切岸、掘立柱建物  
 登山条件 : 中国自然遊歩道 (登山道) あり  
 所在地 : 下関市豊浦町大字川棚字江良

### 【金怡山城の概要と特徴】

金怡山城は川棚地区に広がる平野部奥の丘陵頂上にある。丘陵の北西側は自然地形の急斜面を活かしつつ、南東側の緩い斜面に階段状に腰曲輪を連ねて防御を固めている。発掘調査の成果から鎌倉時代に実在したことが証明されている。

中腹には、川棚温泉の開基である怡雲和尚がつとめていた由緒ある寺院「三恵寺」も存在する。



【真言宗飛来山三恵寺】

大同元年 (805) に東大寺二世実忠 (じつちゅう) 和尚により創建。その後、荒れ果てた三恵寺を怡雲 (いうん) 和尚が再興したと伝えられている。本尊の千手観音菩薩立像は県指定文化財。

中腹にある三恵寺。城がある厳しい環境は修行の場でもあり怡雲和尚の伝承も生まれた。



# 金怡山城のあるところ～怡雲和尚と信仰の対象

金怡山城がある山地には信仰に関わるものが点在する。通常は宗教活動を行う場が、非常時には山城として利用されていたと思われる。その他、怡雲和尚所縁の指定文化財等もあり見所豊かな場所である。

### 【アクセス】

まずはコルトーホールへ。県道沿いから長谷溜池の堰堤を通って三恵寺参拝道を進みお寺に至る。30分程の道程。



A. 怡雲和尚の伝承を残すもの。真言の秘方水行で唐の国の火事を消したといわれている。



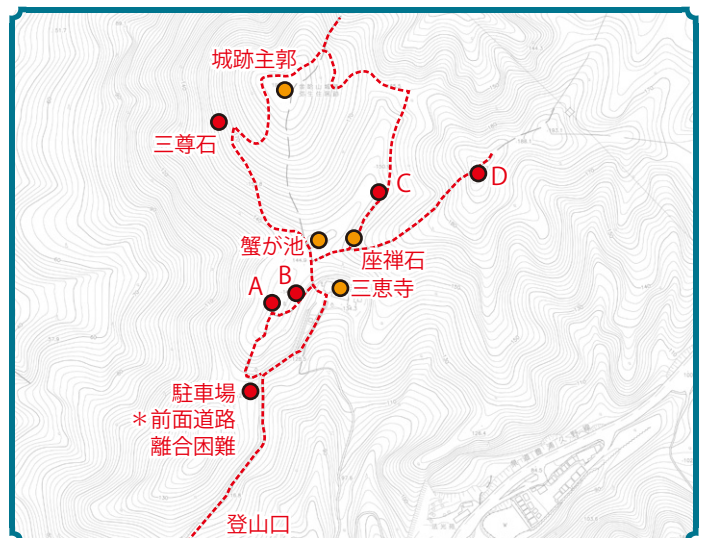
B. 県指定天然記念物のモッコク。ツバキ科の常緑樹で、根元から三つの枝に分かれる県下有数の巨木。



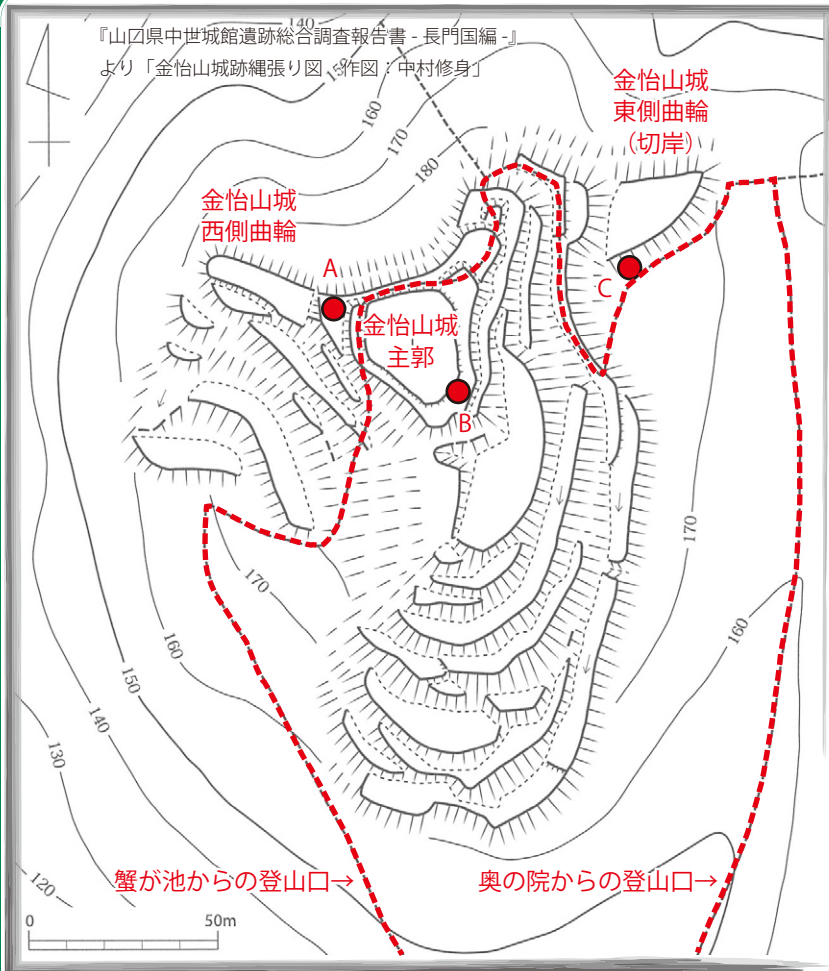
C. 怡雲和尚が即身成仏を修め入寂されたといわれる奥の院。



D. 神仏習合の名残と思われる白山権現。金怡山城周辺が山岳信仰の場であったことを物語る。







### 【金怡山城の縄張り】

金怡山城は南北に延びる丘陵の頂上に主郭を設けている。南側の尾根沿いが正面で、北側が搦手と考えられる。西側は急斜面であるのに対し、東側は谷に向かって緩やかな斜面であり、弱点となる。そのため谷に向かって南東方面に階段状に幾重にも曲輪を設け、守りを固めている。西側に張り出すように設けられた曲輪は、川棚平野から響灘を見下ろす位置にあり、見張り台の役割を果たす。特徴として、斜面地形をうまく利用した城地選地で、堀切等を設けないところにある。

発掘調査では鎌倉時代の土器が見つかったが、城の特徴からは戦国期のものとみられている。

## 金怡山城を攻める



A: 主郭から西側曲輪を見たところ。川棚平野から響灘を見下ろす位置にある。



B: 主郭南東側に取り付く腰曲輪。南東側斜面は段状に幾重にも曲輪が設けられる。



C: 主郭東側の曲輪と直下の切岸。東側谷部を見下ろす位置にあり進入を遮断する。



\*裏面 A: 「国見岩」南側尾根上の出城状曲輪。尾根線上の守りを固める役割。

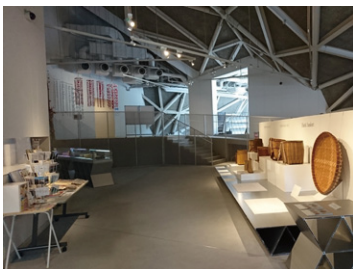
## もっと金怡山城を知りたい...

### 【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」(2017) 山口県教育委員会
- ・「豊浦町史、豊浦町史2、豊浦町史考古編」(1979、1982、1992) 豊浦町
- ・「山口県史資料編考古2」(2004) 山口県
- ・「城山遺跡」(1986) 豊浦町教育委員会

### 【参考となる場所など】

- ・下関市烏山民俗資料館：学芸員さんに詳しい歴史を聞くのもよし。
- ・川棚温泉観光ボランティアの会：定期的に史跡・旧街道ハイキングなど実施。個別のご案内は要相談。(事務局 (川棚温泉交流センター内) Tel: 083-774-3855)
- ・真言宗飛来山三恵寺：三恵寺の詳細はこちらでも。(Tel: 083-774-2433)



コルトーホールにある下関市烏山民俗資料館。学芸員さんに聞いてみるのもお薦め。



川棚温泉観光ボランティアの会にご案内をお願いするのもお薦め。